

次世代教育学部こども発達学科

科目コード	21106		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	保育原理		担当者名	橘高 真紀子			○		
			実務経験との関連	保育士、保育所園長としての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。					
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

保育の基本理念・歴史・制度・実践について学び、保育者としての基礎的な知識を身につける。講義およびグループワークを取り入れた授業を行う。

<授業の到達目標>

1. 保育の理念や基本原則を説明できる。
2. 子どもの発達と保育の関係について理解できる。
3. 保育者の役割と求められる資質について考え、自らの姿勢を明確にできる。
4. 保育に関する課題をグループで議論し、考察できる。

<授業の方法>

- ・授業テーマに即したワークやグループディスカッションを行う（全てにおいてワークシートを配布する）。
- ・各自、またグループで発表を行いそれぞれの考えを共有し、学びを深める。
- ・まとめの講義を行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループディスカッション等を行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・受講態度、グループディスカッションの参加態度 （30%）
- ・リアクションペーパーの提出（適切な着眼点の意見や感想） （30%）
- ・最終レポート （40%）

<教科書>

特になし

<参考書>

「幼稚園教育要領解説」 フレーベル館
「保育所保育指針解説」 フレーベル館
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 フレーベル

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	・オリエンテーション	授業計画説明、養護と保育の一体化、保育内容領域、幼児教育保育の社会における役割
2	・保育の理念と概念	0～2歳児について
3	・子どもの発達をふまえた保育①	3～5歳児について
4	・子どもの発達をふまえた保育②	オンデマンド：施設形態、子どもの保育施設での一日（延長保育、一時保育、病児保育等々）、自由保育、一斉保育、縦割り保育、等々
5	・さまざまな幼児教育保育形態	保育所保育指針より：子どもが主体的に関わることのできる環境を保育者が計画的に準備することの重要性について。
6	・環境による保育	保育所保育指針の概要、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿、育みたい資質・能力
7	・保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育保育要領に基づく教育保育	保育計画の必要性、それぞれの計画の役割、評価の方法
8	・PDCAに基づく保育	子育て支援が求められる背景と必要性
9	・子育て支援、連携	保幼小連携の意義や課題
10	・保幼小の連携	保育施設における安全防災対策、子どもの虐待防止と保育
11	・子どもの安全をふまえた保育	保育施設における安全防災対策、子どもの虐待防止と保育
12	保育所保育指針の考え方（５）保育のねらいと内容	・グループごとに前回まとめたものを発表し、質疑応答する
13	・諸外国の保育の思想と歴史②	・グループワーク：グループごとに日本の教育学者、思想家等について調べまとめる
14	・日本の保育の思想と歴史①	・グループごとに前回まとめたものを発表し、質疑応答する
15	・日本の保育の思想と歴史②	・子ども子育て支援制度
		・家庭教育環境の現状と課題（貧困、虐待）
		・保育士のキャリアアップ研修
		・レポートテーマを伝える

次世代教育学部こども発達学科

科目コード	21400		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	器楽演習Ⅰ		担当者名	高崎 展好			○		
			実務経験との関連	高等学校教員としての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	講義・演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

保育・教育現場に必要とされるピアノ弾き歌い技術習得に向け、音楽のルールを学び、音楽の基礎知識や楽譜に記された記号や用語を理解し、ピアノ演奏に必要な読譜力、視唱力、コード（和音）伴奏の習得を目指します。本授業では、音楽の理解を深めるとともに、基本的な発声、ソルフェージュ、歌唱作品を通じて音楽の3要素であるメロディー、ハーモニー、リズムを体感し、楽譜を理解することから音楽の楽しさを会得します。すべての課題レポートについては、Google Classを使用するため、PCを準備の上、望んでください。※幼稚園教諭Ⅰ種免許状取得希望者及び、幼稚園教育実習に参加する場合、器楽演習Ⅰ・Ⅱの単位を修得済みであること（教職の手引き「教育実習履修内規より」）

<授業の到達目標>

- ① 楽譜の読み書きを含めた基礎的な音楽基礎力を身に付ける。
- ② ピアノ旋律演奏に必要な読譜力、ピアノ技術を身につける。
- ③ 歌唱に必要な基本的発声、柔軟体操、表現力を身に付ける。
- ④ ピアノ・コード伴奏に必要な和音（コード）を学習し、簡単な伴奏法の習得を目指す。また読譜力習得に向けたリズム・ソルフェージュを行い視唱力、初見力を高める。コードネームを用いて「子どもの歌」の伴奏付けができることを目標とする。

<授業の方法>

音楽理論を中心とした講義を中心に読譜のためのリズム・ソルフェージュ、歌唱指導、ピアノ技術指導の演習を交えながら授業を行う。講義では教科書、教材を中心に学習を進めるが、練習問題や楽譜等の資料を配布することが多いため、各自ファイルを準備することが好ましい。各テーマ（単元）で小テスト、実技テストを実施し習熟度を測る。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・意欲 20%、小テスト 30%、実技テスト30%、提出物 20%

<教科書>

高崎展好 編著（発行2018年3月）「わかりやすい！学びやすい！コードでかんたん！保育のうた」環太平洋大学
坪野春枝 著（発行2021年3月15日）「最もわかりやすい楽典の入門【改訂版】＊応用問題＊解答付」有限会社ケイ・エム・ピーkmp

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の進め方の確認歌唱指導
2	楽譜の仕組み1	発声、リズム学習、歌唱指導譜表
3	楽譜の仕組み2	発声、リズム学習、歌唱指導音符と休符
4	楽譜の仕組み3	発声、リズム学習、歌唱指導階名と音名、フラッシュ読譜演奏
5	楽譜の仕組み4	発声、リズム学習、歌唱指導拍子、調号と臨時記号、フラッシュ読譜演奏
6	楽譜の仕組み5	発声、リズム学習、歌唱指導様々な記号:発想記号、速度記号、省略記号
7	楽譜の仕組み6	発声、リズム学習、歌唱指導、ピアノ基礎練習課題、フラッシュ読譜演奏
8	楽典と演習1	発声、リズム学習、歌唱指導、コード（和音）フラッシュ読譜演奏、課題曲「ちょうちょう」
9	楽典と演習2	発声、リズム学習、歌唱指導、コード（和音）フラッシュ読譜演奏、課題曲「チューリップ」
10	楽典と演習3	発声、リズム学習、歌唱指導、コード（和音）フラッシュ読譜演奏、課題曲「ぶんぶんぶん」
11	楽典と演習4	発声、リズム学習、歌唱指導、コード（和音）フラッシュ読譜演奏、課題曲「こぎつね」
12	楽典と演習5	発声、リズム学習、歌唱指導、コード（和音）フラッシュ読譜演奏、課題曲「おべんとう」
13	楽典と演習6	発声、リズム学習、歌唱指導、コード（和音）フラッシュ読譜演奏、課題曲「かたつむり」
14	楽典と演習7	音楽理論の復習及び、確認テスト
15	総括・試験	模擬保育形式によるピアノ弾き歌い確認テスト（課題曲2曲より選択）振り返り、まとめ

次世代教育学部こども発達学科

科目コード	21401		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	器楽演習Ⅱ		担当者名	高崎 展好／三好 啓子			○		
			実務経験との関連	担当者の中で高等学校教員としての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

音楽理論に関する講義を中心に、読譜力を養うためのリズム・ソルフェージュ、歌唱指導、ピアノ技術指導などの演習を組み合わせ、授業を行う。

講義では教科書や教材を用いて学習を進めるが、練習問題や楽譜などの補助資料を配布することが多いため、各自でファイルを準備してください。また、各テーマ（単元）ごとに小テストや実技テストを実施し、習熟度を確認する。

本授業はグループプレッスンを中心に、必要に応じて個人レッスンを併用して行う。各授業時間内に模擬保育形式での発表を行い、実践力を養うことを目指す。

<授業の到達目標>

- ① 楽譜の読み書きを含む、ピアノ演奏に必要な音楽基礎力を身につける。
- ② ピアノによる旋律演奏に必要な読譜力および演奏技術を習得する。
- ③ 歌唱に必要な基本的な発声法、柔軟体操、表現力を身につける。
- ④ ピアノによるコード伴奏に必要な和音（コード）の知識を学び、簡単な伴奏法を習得する。また、リズム練習やソルフェージュを通して読譜力を高め、視唱力・初見力を養う。
- ⑤ コードネームを用いて、「こどもの歌」に相応しい伴奏を自らつけられるようになることを目標とする。
- ⑥ 人前で演奏することに慣れることを目的に、定期試験期間にピアノ弾き歌い公開実技試験を実施する。

<授業の方法>

音楽理論に関する講義を中心に、読譜力を養うためのリズム・ソルフェージュ、歌唱指導、ピアノ技術指導などの演習を組み合わせ、授業を行う。

講義では教科書や教材を用いて学習を進めるが、練習問題や楽譜などの補助資料を配布することが多いため、各自でファイルを準備してください。また、各テーマ（単元）ごとに小テストや実技テストを実施し、習熟度を確認する。

本授業はグループプレッスンを中心に、必要に応じて個人レッスンを併用して行う。各授業時間内に模擬保育形式での発表を行い、実践力を養うことを目指す。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度、参加意欲 20%、ピアノ弾き歌いレポートリー及びバイエル40%、実技テスト 40%

<教科書>

坪野春枝 著（発行2021年3月15日）「最もわかりやすい楽典の入門【改訂版】＊応用問題＊解答付」有限会社ケイ・エム・ピーkmp

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション 発声法・ピアノ弾き歌い演習	授業概要と課題の説明、発声指導、ソルフェージュ、リズムの学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノ弾き歌い「かたつむり」
2	楽典と演習1	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い
3	楽典と演習2	復習、確認テスト確認テストは模擬保育形式で実施
4	楽典と演習3	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い
5	楽典と演習4	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い
6	楽典と演習5	復習、確認テスト確認テストは模擬保育形式で実施
7	楽典と演習6	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い
8	楽典と演習7	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い
9	楽典と演習8	復習、確認テスト確認テストは模擬保育形式で実施
10	楽典と演習9	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い
11	楽典と演習10	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い
12	楽典と演習11	復習、確認テスト確認テストは模擬保育形式で実施
13	楽典と演習12	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い
14	楽典と演習13	発声指導、ソルフェージュ、リズム学習、コード、ピアノ演奏テクニック、ピアノを用いた弾き歌い
15	楽典と演習14	音楽理論確認テスト、振り返り、まとめ ※ピアノ弾き歌い実技試験の連絡
16	定期試験	ピアノ弾き歌い実技試験実施事前に発表された課題曲5曲より当日抽選で2曲演奏

次世代教育学部こども発達学科

科目コード	34210		区 分	コア			実務経験のある教員等による授業科目		
授業 科目名	子どもの理解と援助		担当者名	大久保 諒			○		
			実務経験 との関連	スクールカウンセラーとしての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本科目では、子どもの発達に関する様々な知見を踏まえ、それに基づいた子どもや保護者の理解と援助の在り方を演習形式で学ぶ。第1回に授業の目的や性質を学ぶ。第2回から第5回までは「子どもの実態に応じた発達や学びの把握」について学ぶ。第6回から第10回までは「子どもを理解する視点」について学ぶ。第11回から第12回までは「子どもを理解する方法」について学ぶ。第13回から第15回までは「子どもを理解に基づく発達援助」について学ぶ。

<授業の到達目標>

- ① 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することに意義について理解する。
- ② 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。
- ③ 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。
- ④ 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。

<授業の方法>

各回の授業は、概ね次の要領で進む。まず、その回の学習内容について、ポイントを提示する。つづいて、その回の学習内容に関するスライドを提示し、詳しく解説を行う。そして、その回の講義内容について、体験的に学習を深めるための演習課題への取り組みを求める。また、学習内容について、事前学習を促す小課題や、事後的に理解度を確認する小課題への回答を定期的に求め、理解の定着を図る。なお、講義内ではGoogle Classroomを利用する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

演習の参加態度：25%、小課題の成績：25%、学期末レポートの成績：50%を総合して最終的な成績を定める。

<教科書>

特になし

<参考書>

高嶋景子・砂上史子（編著）（2019/4）「子どもの理解と援助」ミネルヴァ書房

遠藤利彦（編著）（2021/6）「情動発達の理論と支援」金子書房

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の説明、子どもの理解と支援に必要な観点
2	子どもの実態の理解①	広範な個人差
3	子どもの実態の理解②	生物学的背景に基づく個人差
4	子どもの実態の理解③	社会・文化的背景に基づく個人差
5	子どもの実態の理解④	個人差に配慮した共感や、保育・養護・教育
6	子どもの保護者の理解と支援①	保護者と子どもの相互規定関係、保護者の持つ背景
7	子どもの保護者の理解と支援②	子どもの特徴から保護者が被る影響
8	子どもの集団生活の理解と支援①	子どもの安全の確保、子どもの生活習慣の確立、子どもが身に着けるルール
9	子どもの集団生活の理解と支援②	子どもの遊びや仲間関係を通じた経験
10	環境の変化	家庭生活と園生活の関係
11	子どもを理解する方法①	子どもの観察に関する方法と記録の取り方、評価と省察
12	子どもを理解する方法②	子どもの情報の収集と共有の方法（職員間のコミュニケーション、保護者とのコミュニケーション）
13	子どもの理解に基づく発達援助①	発達の段階や個人差に応じた課題に対する援助
14	子どもの理解に基づく発達援助②	特別な配慮を要する子どもや、その保護者の理解と援助
15	子どもの理解に基づく発達援助③、まとめ	発達の連続性と就学への支援、授業全体の振り返り

科目コード	23202		区 分	コア			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	教育社会学		担当者名	濱嶋 幸司			○		
			実務経験との関連	独立行政法人のアシスタントフェローとしての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では教育社会学の立場から「教育に対する社会的事項」「教育に関する制度的事項」「教育に関する経営的事項」「学校と地域との連携」「学校安全への対応」を含み、教育の諸現象を社会学的に考察し、その問題解決の方策を探る。また、教師が主体的に関与する方策も考える。教育社会学のこれまでの研究成果を紹介し、履修者に多様な価値観、思考枠組を提供することを目的とする。具体的には、教育現象に関わる個人の心理や社会の仕組みを社会学的視点に基づいて紹介し、履修者が現在および将来、直面することになる諸課題を自分で考え、解決策を見つけることのできる技術を養う。専門知識だけでなく、事例を用いながら説明する。自分のこれまでの生活を振り返り、視野を広げ、今後の進路に役立つ機会としたい。

<授業の到達目標>

- ① 教育に関する社会的事項（社会や子どもの変化）の学校教育への影響、それに対する教育改革、教育政策、現場の対応を理解する。学校をめぐる社会的事項を理解する。子どもの生活の変化と実態や指導上の課題を理解する。近年の教育政策、教育改革を理解する。諸外国の教育事情・教育改革の動向を理解し、日本へ改革への示唆を得る。
- ② 現代の公教育制度の意義・原理・法的・制度的仕組みや課題に関して理解する。教育関係法規、教育行政の理念と仕組みを理解する。教育制度の諸課題の例示ができる。
- ③ 学校経営の観点からの学校や教育行政機関の目的と実際を理解する。学校経営の理念を知る。学校の年間計画と学校評価の方法を理解する。学級経営仕方を理解し、教職員と学校外機関との連携を理解する。
- ④ 学校と地域との連携の意義や方法を理解する。学校と地域との連携の意義や方法に関して学び、その経緯を理解する。
- ⑤ 学校安全への対応を理解する。保健安全法に基づく危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取り組みを理解する。過去の事例や実情を踏まえ学校の危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性についても理解する。生活安全、交通安全、災害安全及び新たな安全上の課題について、具体的な取り組みを理解する。
- ⑥ その他、教育の社会的な側面の理解を深める。 教育現象に対する社会学の見方を学ぶ。

<授業の方法>

オンデマンド形式でおこなう。履修者へは各回資料を配布する。各回の理解および振り返りを求める。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各回の視聴課題（15%）、リアクション（25%）、最終課題[選択式テストと記述式小レポート]（60%）

<教科書>

特に指定しない（参考書を参照しながら講師が独自に説明する）

<参考書>

岩永雅也（2019年）『教育社会学概論』放送大学出版会
中村高康・松岡亮二（2021年）『現場で使える教育社会学：教職のための「教育格差」入門』ミネルヴァ書房
高野良子・武内清編著（2024）『教育の基礎と展開 豊かな教育・保育のつながりをめざして』〔第3版〕学文社

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	ガイダンス：教育社会学とは？	科目のねらい、到達目標、授業の進め方、成績評価基準などの説明
2	教育社会学とは？①教育社会学の目的・対象・手法	教育社会学の特色、他の学問領域との違いを説明する。社会科学としての研究スタイルを説明し、教育社会学が対象としてきた事例、その目的、手法についても概説する。教育社会学の研究がどのように現在に至るのか、これまでの著名な研究を時代背景とともに説明する。日本の研究を中心とするが、海外の研究に大きな影響を受けているため、その研究についても触れる。
3	教育社会学とは？②教育社会学の歴史と現在	
4	ライフコースと教育社会学①家族と子ども	身近な社会集団といえる家族そして乳幼児期からの子ども社会について説明する。
5	ライフコースと教育社会学②小学生・中学生	義務教育段階の子どもと彼らを取り巻く社会・学校・教育現象について説明する。
6	ライフコースと教育社会学③高校生	高校生の意識および彼らを取り巻く社会、学校、教育現象について説明する。
7	ライフコースと教育社会学④大学生	大学生文化とは何か？大学文化とは？高等教育機関を取り巻く社会、大学、教育現象を説明する。
8	ライフコースと教育社会学⑤職業（初期キャリア）	学校から職業への移行は教育社会学においても重要なテーマである。仕事を探す、キャリアを形成することを教育社会学ではどのように読み解けるのか説明する。
9	ライフコースと教育社会学⑥職業（中期～キャリア）	キャリアと年齢を積み重ね、初職の勤め先を続けることもあれば、離転職を繰り返すこともある。仕事と生活の両立、結婚・子育てといったライフコースについても教育社会学から読み取れることを説明する。
10	ライフコースと教育社会学⑦居住・成熟・老い	一見、学校、教育と関係のないように思われるが、人生の中盤、後半に差し掛かった場面もまた教育社会学の対象となる。成人になってからも学習することは多く、キャリアを積み重ねることの重要性を説明する。
11	教育社会学の観点①グローバリズムとナショナ	これからの国際社会を生きることと、自分はどこかの土地で生きること、どちらも将来

次世代教育学部こども発達学科

	リズム	の生活において不可欠なテーマである。テーマのキーワードを中心に説明しながら、教育社会学を用いてどのような理解ができるか各自に考えてもらう。
12	教育社会学の観点②教育格差とは何か	経済的な格差、暮らし向きの格差、待遇の格差、機会の格差、さまざまな格差が拡大しているといわれている。教育もまたこのような格差との関わりをもっている。テーマのキーワードを中心に説明しながら、教育社会学を用いてどのような理解ができるか各自に考えてもらう。
13	教育社会学の観点③社会「問題」と向き合う	社会の「問題」はどこにあるのか？何が「問題」なのか？逸脱現象などとも大きく重なる。ここでは社会「問題」の社会学（クレイム申し立て活動）、構築主義的な考え方を概説する。テーマのキーワードを中心に説明しながら、教育社会学を用いてどのような理解ができるか各自に考えてもらう。
14	教育社会学の観点④教師への期待と役割	教師および教師を取り巻く社会もまた教育社会学の重要なテーマのひとつである。教師という専門職（仕事）、教師の実践（意識）など概説する。テーマのキーワードを中心に説明しながら、教育社会学を用いてどのような理解ができるか各自に考えてもらう。
15	展望：これからの教育社会学をどのように活用できるか	14回にわたる説明をもとに、教育社会学とはどういう学問なのか、現時点での到達状況を説明する。また、履修者自身、教育社会学を用いることでどのような発見、関心を持ったのか、これから何ができそうか考えてもらう時間とする。

次世代教育学部こども発達学科

科目コード	52006		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	保育実習指導ⅠB(施設)		担当者名	松本 好生/檜寄 日佳 増岡 希望			○		
			実務経験との関連	担当者の中で福祉系専修学校教員・幼稚園教員・保育士としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに実習について指導する。					
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	1単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

児童福祉施設実習に臨む心構えを学ぶとともに、施設実習における自己課題を見出す。また、施設実習中の子どもとの生活を通し、子ども理解を深め、児童養護実践力の向上に努める。

<授業の到達目標>

- ・児童福祉施設における記録方法について学ぶ。
- ・施設入所児童への理解を深め、実際の支援について考える。
- ・施設実習での活動を通して、保育者としての自己課題を見出す。

<授業の方法>

講義、グループワーク、個別指導等を適宜組み合わせる。また、必要に応じて上級生（保育実習ⅠB既習者）等をゲストに迎えて心構えに関する演習を行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度50%、実習に向けた実習ノート作成等の課題50%

<教科書>

岡山県保育士養成協議会(2021)「保育実習の手引き」保育士養成協議会

厚生労働省「保育所保育指針（平成29年告示）」フレーベル館

内閣府文部科学省厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育教育要領」フレーベル館

<参考書>

適宜指示します

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業担当教員紹介と実習参加条件及び受講ルールについて
2	実習の意義と目的	実習の意義・目標、スケジュールについて
3	施設の種類と内容(1)	施設概要の学習(養護系施設)について
4	施設の種類と内容(2)	施設概要の学習(障害児施設)について
5	施設の種類と内容(3)	施設概要の学習(障害者支援施設)について
6	実習記録(1)	実習日誌の意義について
7	実習記録(2)	実習記録のポイントと方法について
8	実習記録(3)	実習記録のポイントと方法について
9	実習書類作成	自己紹介状、誓約書、出勤簿等の作成について
10	実習施設の学習	実習施設のプロフィール調査について
11	実習課題の設定	実習課題の理解と作成について
12	事前訪問指導	実習課題の理解と作成及び事前オリエンテーションの諸注意について
13	実習の実際	保育実習ⅠB既習者である上級生からアドバイス、及び公欠届について
14	実習の心構え	プライバシーの保護と守秘義務、人権尊重と実習態度について
15	実習事後指導とまとめ	お礼状の作成・発送、体験報告、反省課題と報告書の作成について

次世代教育学部こども発達学科

科目コード	52005		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	保育実習指導ⅠA(保育所)		担当者名	橘高 真紀子/檜寄 日佳 増岡 希望			○		
			実務経験との関連	担当者の中で幼稚園教員・保育士としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに実習について指導する。					
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	1単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

保育実習ⅠAの事前学習と事後学習のためのものである。実習のねらいと目的、課題を理解し、実習に臨むために必要な知識と力を身につける。また、実習生としての心構えやマナーなどの基本を実践的に学ぶ。実習後には各自が実習を振り返り、次の実習へとつなげる。

<授業の到達目標>

1. 保育の観察、記録、実習計画、実践、評価の方法や内容について具体的に理解する。
2. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

<授業の方法>

講義、演習、グループワーク、個別指導

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲20%、課題50%、チーム貢献度10%、試験20%※授業は全出席すること

※提出物は期限を厳守すること※社会人としてふさわしい態度で臨むこと

<教科書>

岡山県保育実習委員会（2023）「保育実習の手引き」

<参考書>

厚生労働省（2018）「保育所保育指針解説」フレーベル館

内閣府（2018）「認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	実習の意義と概要、授業ルール	授業の概要と目標、授業の進め方授業ルールの確認
2	実習の意義と目標	保育実習の意義と目標実習園希望調査
3	実習の流れと実習生としての心構え	実習の流れと実習のステップ実習生としての心構え
4	保育の理解	保育の理解と保育の目標子どもとの関わり方、保育士等の社会的責任
5	指導案の作成（1）	子どもの姿とねらい、環境構成、活動の流れ
6	指導案の作成（2）	保育士の援助・配慮、作成上の留意事項
7	保育教材の作成（1）	シルエットクイズの作成と発表
8	保育教材の作成（2）	ペープサートの作成と発表
9	模擬保育（1）	模擬保育と振り返り（1）
10	模擬保育（2）	模擬保育と振り返り（2）
11	模擬保育（3）	模擬保育と振り返り（3）
12	実習前オリエンテーション	実習書類の作成実習前オリエンテーションの意義と方法
13	実習日誌の書き方	実習中のメモの取り方と日誌の書き方エピソード記録と考察の書き方の演習
14	実習までの準備	実習の自己課題の設定と実習準備守秘義務と情報の管理
15	実習のまとめ	自己課題及び実習成果のまとめ礼状の作成

次世代教育学部こども発達学科

科目コード	52002		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	保育実習指導Ⅱ(保育所)		担当者名	橘高 真紀子/檜寄 日佳 増岡 希望			○		
			実務経験との関連	担当者の中で幼稚園教員・保育士としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに実習について指導する。					
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

保育実習Ⅱの事前学習と事後学習のためのものである。実習のねらいと目的、課題を理解し、実習に臨むために必要な知識と力を身につける。また、実習生としての心構えやマナーなどの基本を実践的に学ぶ。実習後には各自が実習を振り返り、実習の総まとめをする。

<授業の到達目標>

1. 保育の観察、記録、実習計画、実践、評価の方法や内容について具体的に理解する。
2. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

<授業の方法>

講義、演習、グループワーク、個別指導

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実習評価 80%、事前オリエンテーション・反省会 20%

<教科書>

岡山県保育実習委員会（2023）「保育所実習の手引き」

<参考書>

厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館

内閣府文部科学省厚生労働省「認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	実習の意義と概要、授業ルール	授業の概要と目標、授業の進め方 授業ルールの確認
2	実習の意義と目標	保育実習の意義と目標
3	実習の流れと実習生としての心構え	実習の流れと実習のステップ 実習生としての心構え
4	保育の理解	保育の基本と保育の目標 保育所保育指針の確認
5	指導案の作成（1）	子どもの発達段階や興味関心を考慮したねらいと活動
6	指導案の作成（2）	ねらいを達成するための保育士の援助と配慮
7	保育教材の作成（1）	パネルシアターの作成と発表
8	保育教材の作成（2）	スカッチブックシアターの作成と発表
9	模擬保育（1）	模擬保育と振り返り（1）
10	模擬保育（2）	模擬保育と振り返り（2）
11	模擬保育（3）	模擬保育と振り返り（3）
12	実習書類の作成 実習前オリエンテーション	実習書類の作成 実習前オリエンテーションの意義と依頼、訪問のマナー
13	実習記録の書き方	わかりやすいエピソード記録と考察の書き方
14	実習までの準備	実習の自己課題の設定と実習準備 守秘義務と情報の管理
15	実習のまとめ	自己課題及び実習成果のまとめ 礼状の作成

次世代教育学部こども発達学科

科目コード	51008		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業 科目名	教育実習事前・事後指導(幼稚園)		担当者名	檀寄 日佳/増岡 希望			○		
			実務経験 との関連	担当者の中で幼稚園教員・保育士としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに実習について指導する。					
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	1単位	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

幼稚園教育実習における事前準備と事後振り返りを行う。事前授業では、幼稚園教育の基本、幼児の発達の特徴、教育実習を行う際の心構え等について学ぶ。これまでの幼稚園教育専門科目で学んだ内容と、実習園での実習内容とを結合させて教育実習の成果をあげ、教職への認識を確かなものとする。実習生としての心構えやマナーなどの基本を実践的に学ぶ。実習後には実習を振り返り、次の実習へとつなげる。

<授業の到達目標>

1. 保育の観察、記録、実習計画、実践、評価の方法や内容について具体的に理解する。
2. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

<授業の方法>

講義、演習、グループワーク、個別指導

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲・チーム貢献度30%、課題50%、試験20%

<教科書>

環太平洋大学（2023.3）「教育実習の手引き（幼稚園）」

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	実習の意義と実習ルール	実習の意義と目標、実習ルールの確認
2	実習の意義と目標	実習の意義と目標の確認
3	実習の段階と実習の心構え	実習の段階と流れ、実習生としての心構え
4	幼稚園の理解	幼稚園教育要領の確認、教師の資質と幼児理解
5	指導案の作成（1）	発達段階及び幼児の姿を考慮した「ねらいと内容」、「活動内容」
6	指導案の作成（2）	ねらいを達成するための「教師の援助と配慮」
7	保育教材の作成（1）	自己紹介教材の作成と発表
8	保育教材の作成（2）	お楽しみ会やお別れ会の準備と発表
9	模擬保育（1）	模擬保育と振り返り（1）
10	模擬保育（2）	模擬保育と振り返り（2）
11	模擬保育（3）	模擬保育と振り返り（3）
12	実習書類の作成、実習前オリエンテーション	実習園送付書類の作成、実習前オリエンテーションの意義と方法
13	実習記録の書き方	記録の取り方と日誌の書き方、エピソード記録と考察
14	実習までの準備	実習の自己課題、実習の準備、守秘義務と情報の管理
15	実習のまとめ	自己課題及び実習成果のまとめ、礼状の作成